

6月 清掃山行

6月1日 二ヶ城山



参加者 28名

CL 熊谷 修 SL 吉岡俊二

白川、永谷、林、川村、村島、円山、松尾、熊谷陽、宮木一、滝、若木、
鬼武、三浦美、三重典、村田、成広、上別祖、中谷、坂本、熊野、原田
中島美、梶野、安永、三重成、[会友] 三浦

コースタイム

広島駅北口9:40 (バス) ⇒上温品10:00→菰口憩の森 (登山口) 10:50→
二ヶ城山頂12:10 →千畳敷 (昼食12:20~13:20) →山頂・菰口分岐・鉄塔→
菰口憩の森14:40 (ゴミ分別収集後解散)

○
心配していたお天気も回復し、行動も出発後は予定より 10~25 分早めに推移し良かった。登山道にはほとんどゴミは無かったが、登山口や途中の車道で車が止められる場所の側の谷間に多くの大型ゴミが捨てられていた。市民のモラルの問

題(収集ゴミの内訳・ビン・カン類 9Kg、燃えるゴミ 2Kg、燃やせないゴミ 9Kg、ホイル付タイヤ 3本 45Kg 合計 65Kg) 収集したゴミは区役所へ回収を依頼しました。

(記 熊谷修)

○

登山道にはほとんどごみはなかった。

登山者の意識改革が見られたのだろうか。03年度のクリーンハイキングの参加者は思ったより多かったのでうれしかった。

二ヶ城山ははじめての山だったが、登っていて何とも変化の少ない山だと思った。登っているのか下っているのかいくつかのアップダウンの繰り返しでいつの間にか頂上に着いたという感じだった。

途中前を歩いていた人がすべてごみを拾ったのか大きな一升瓶以外は、後ろを歩いていた私にはごみは見えなかった。あまり人が来ないのかと求めていたらいくつかのパーティにあったから近郊の山でもあるしかなり登る人がいる様だ。

ごみのないことは結構なことだと思った。しかし、まったくいけないのはアプローチの道である。車の通る細い道であるがバイパス的に利用されているようで、簡単に車で家庭から出る大型ごみや建築廃材らしきものを少し道が広くなったところに捨てることができる。われわれの様なクリーンハイクでは処理できないごみである。

行政は「ごみを捨てることは犯罪です」という看板は立ててはいるが監視はまったくないので夜こっそりと捨てに来る不屈きな人種がいるのだろう。何とかならないものかと帰る道々話をした。

登山道のごみの収集を終えて登山口の

広場で環境保護について少し話をした。身近な問題としては、ごみを減らすこと、リサイクルできるものを使用するようになればごみは減る。原発の問題、廃棄できない廃棄物（放射能のごみの処分）の問題、私たちが使う電力の35%以上は原発によること、火力発電はCO₂の問題は地球温暖化の大きな課題であるし、原発そのものはCO₂は出さないが燃料を作る段階では石油からの電力に依存しているからトータルではCO₂は火力とほとんど変わらないことはあまり知られていない。

もう一つはオゾン層の破壊による紫外線が地表に降り注ぐこと。フロンガスの規制が全世界で実行され始めたが、まだ完全には行われていない。

紫外線は生命に危険な放射線であるから原発のハイキ物が持つ放射線と同様目に見えないし、生命にとっては危険であることの認識が我々にはほとんどないこと。もっと話したいことはあったが、少ない時間の割には、当日しかも話をする数分前にいわれて準備していなかったので話が広がりすぎて皆さんには退屈だったかもしれない。日頃思っていることを話した私です。

今後とも、身の回りの環境保護とまでは行かなくとも自分の生活を見直すことでごみを減らし、CO₂減らす生活ができればと思っています。

(記 松尾 幸男)